

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	中和医療専門学校	階数	地上3F
建設地	愛知県稲沢市	構造	S造
用途地域	第二種住居地域	平均居住人員	660 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年6月 予定	評価の実施日	2014年9月4日
敷地面積	8,312.19 m ²	作成者	㈱青島設計 白上 幹洋
建築面積	1,877.71 m ²	確認日	2014年9月8日
延床面積	4,663.12 m ²	確認者	㈱青島設計 内藤 正隆



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 96%

③上記+②以外の 96%

④上記+ 96%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">4.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">2.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td style="text-align: center;">10.7 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td style="text-align: center;">0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	10.7 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	10.7 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出
 ④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-あいち2011年度追補版Ver
中和医療専門学校

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-あいち2011年度追補版
■評価ソフト: CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境					0.40			3.1
1 音環境				3.0	0.15			3.0
1.1 騒音				3.0	0.40			
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策								
1.2 遮音				3.0	0.40			
1 開口部遮音性能				3.0	0.30	3.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.30	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				2.6	0.35			2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50			
1 室温				3.0	0.60	3.0	-	
2 設備変動・過渡制御性								
3 外皮性能				3.0	0.40	3.0	-	
4 ゾーン別制御性				3.0	-			
5 温度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間外空調に対する配慮								
8 監視システム								
2.2 湿度制御				1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				3.1	0.25			3.1
3.1 昼光利用				3.4	0.30			
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口						3.0	-	
3 昼光利用設備			トップライト設置	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30			
1 照度器具のグレア								
2 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-	
3 映り込み対策								
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-	
4 空気環境				4.2	0.25			4.2
4.1 発生源対策				5.0	0.50			
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面的に採用	5.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策								
3 ダニ・カビ等								
4 レジオネラ対策								
4.2 換気				3.0	0.30			
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-	
4 給気計画								
4.3 運用管理				4.0	0.20			
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50			
2 喫煙の制御			全館禁煙を確認	5.0	0.50			
Q2 サービス性能					0.30			3.2
1 機能性				3.4	0.40			3.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40			
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30			
1 広さ感・景観				3.0	0.50	3.0	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	-			
3 内装計画			照明計画、インテリアパースによる内装計画の事前検証を実施	5.0	0.50			
1.3 維持管理				3.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計			風除室内の適正距離確保、動線のバリアフリー化	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50			
3 衛生管理業務								
2 耐用性・信頼性				3.0	0.31			3.0
2.1 耐震・免震				3.0	0.48			
1 耐震性				3.0	0.80			
2 免震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		②		3.0	0.33			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23			

2.4 信頼性					3.0	0.19			
1	空調・換気設備		②		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.3	0.29			3.3
3.1 空間のゆとり					4.2	0.31			
1	階高のゆとり			階高3.9m以上	5.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ				3.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性					3.0	0.38			
1	空調配管の更新性		②		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性				3.0	0.17			
3	電気配線の更新性				3.0	0.11			
4	通信配線の更新性				3.0	0.11			
5	設備機器の更新性				3.0	0.22			
6	バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30			3.1
1 生物環境の保全と創出		●	③		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④	道路、近隣からの良好な景観を形成	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●	④		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.6
LR1 エネルギー					-	0.40			4.3
1 建物の熱負荷抑制				PAL低減率:47.9%	5.0	0.30			5.0
2 自然エネルギー利用					3.5	0.20			3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用				トップライト設置	4.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用					3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				ERR値:58%	5.0	0.30			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					5.0				
集合住宅の評価					3.0				
4 効率的運用					3.0	0.20			3.0
4.1 モニタリング					3.0	0.50			
4.2 運用管理体制					3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.3
1 水資源保護					3.4	0.15			3.4
1.1 節水				省水型機器を採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					3.4	0.63			3.4
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②		3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●			3.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組		●		躯体+軽鉄+仕上材、OAフロアを採用	5.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68			
1 消火剤					-	-			
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50			
3 冷媒					3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率:32%	4.0	0.33			4.0
2 地域環境への配慮					2.5	0.33			2.5
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.2	0.25			
1 雨水排水負荷低減		●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25			
3 交通負荷抑制		●		適切な量の駐輪、駐車スペースの確保	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1 騒音		●			3.0	0.33			
2 振動		●			3.0	0.33			
3 悪臭					3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40			
1 風害の抑制					3.0	0.70			
2 砂塵の抑制					3.0	-			
3 日照障害の抑制					3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.7	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				発光部の点滅、動き、着色なし	4.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30			

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 中和医療専門学校

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 みんなが集えるセントラルコートを中心に豊かなみどりの景観に包まれた、生き活きとしたキャンパスの再生。全室南向きの普通教室とし、シンプルな中にも豊かさを織り込んだ校舎の計画。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 校舎中央にトップライトのあるガレリアを設置し、明るく豊かなアメニティーを提供している。自然光・通風が十分にある学習環境の確保に配慮した。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 動線のバリアフリー化に配慮した。階高にゆとりを持たせ天井高を確保し、開放性の高い快適な学習空間となるよう配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 西側の住宅地に対し十分な広がりを持たせ、敷地周囲に植栽を施し、圧迫感の排除と緑化の推進に配慮した。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 トップライトを設置し、自然エネルギーの利用を図った。高効率の照明を採用し省エネルギーに配慮した。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省水型機器を採用し、節水に配慮した。内部間仕切壁・天井を乾式とすることで、将来の分別容易性に配慮した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内に適切な量の駐輪、駐車スペースを確保し、交通負荷の抑制に配慮した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。